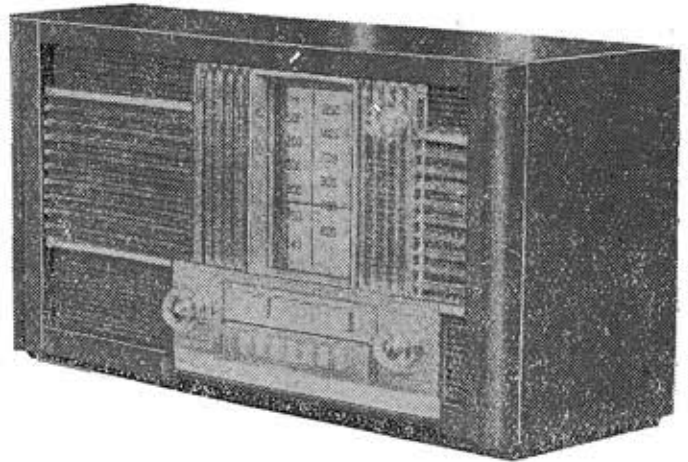


Sharp SB-100

プッシュ・ボタン付

6球スーパー



定 格

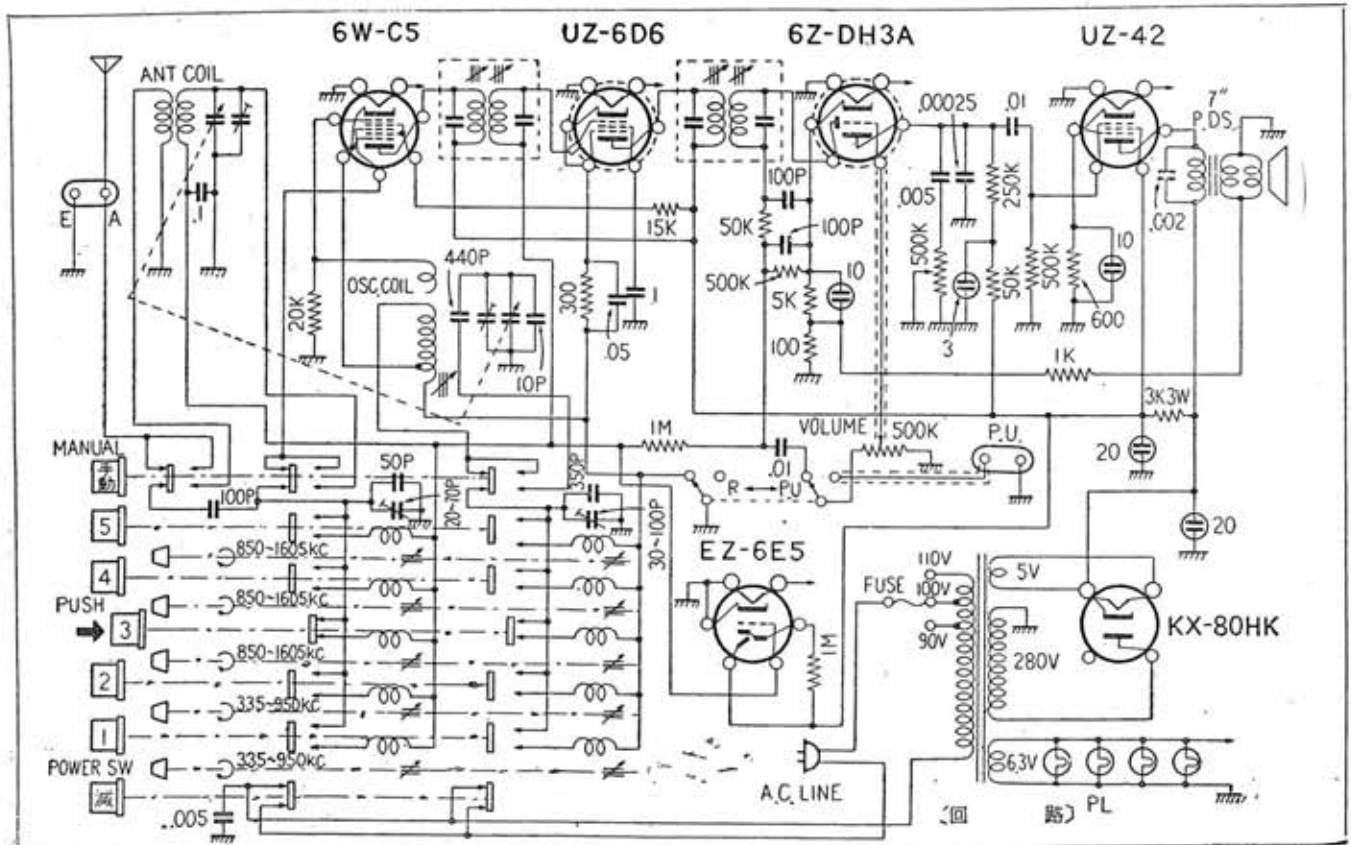
- 回路方式 6球マジック・アイ付きスーパーヘテロダイナ
- 受信範囲 535~1,605kc
- 感 度 極微電界級
- 出 力 1.5 W
- スピーカー シャープ PM-76 型7吋パーマネント・ダイナミック・スピーカー
- アンテナ 長さ 2m, 室内アンテナ自蔵

現在のように多数の局が出現して、空が電波で入れ乱れている時、お好みの放送番組を選びだすことは、最近の受信機が、同調容易の点から大きな減速比を持つにいたったダイヤルでは、仲々すぐにはゆかない。このような時瞬間の選局の要求を見たのがこのSB-100型で、直ちにボタンを押すことによつて局を選択することができる。

キャビネット全体の寸法は590mm×215mm×310mmで相当の重量感があり、どこにおいてもはずかしくない。色調は、茶褐色であり、真中に位置する縦長のダイヤルとその下に連なる7個のプッシュ・ボタン群、及び両側にあるダブルシャフトのテレビ受像機型つまみは、シャープの製品として、1954年型としてふさわしい。

キャビネットは、大量生産に適しているらしく、共通性を持った、前面全部の布地に外囲りベニヤ製のものであるが、このSB-100型はこのキャビネットの前に、アダプターともいふべき、透明のプラスチックの椀型のアクセサリをつけているから、適当に変えることができ、生産上、相当の適合性をもたせることができると思うし、またコストの引き下げにもある程度役立っていると思う。

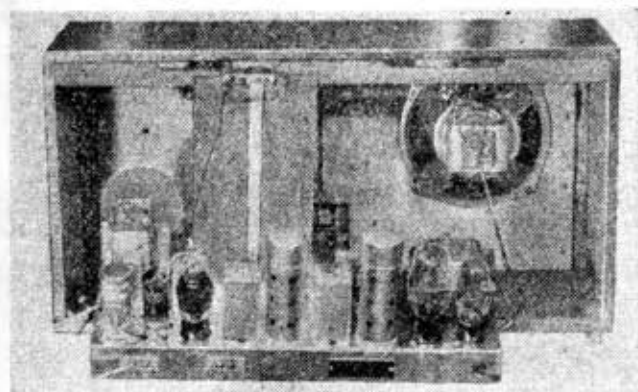
もち論、手動の時も最も斬新なダイヤル微動装置で同調



は楽であるが、さらにこのうえにフライホイールがついていたら、一段とよかつたのではなからうか。ダイヤル面上下部からの照明も美観と鮮明さをそこなわないが、ダイヤル数字は一寸見にくいと思う。

最も面白いのは、プッシュ・ボタン機構で、今迄のこの方式のすべてが、一度放送周波数が違つたと、その再調整には受信機を箱から出してラジオ屋さんの手をわずらわしていたが、この SB-100 では、TV の調整部分をイミつており、局名表示蓋を取り去ると、その奥に5個の黒のベークライト製のつまみが表われ、希望局が受信できるように、マジック・アイを見ながら誰にでも調整できることであつて、この方式の採用は、プッシュ・ボタン方式の今迄の欠点をとりぬきこれから大いに発展する方法と思われる。

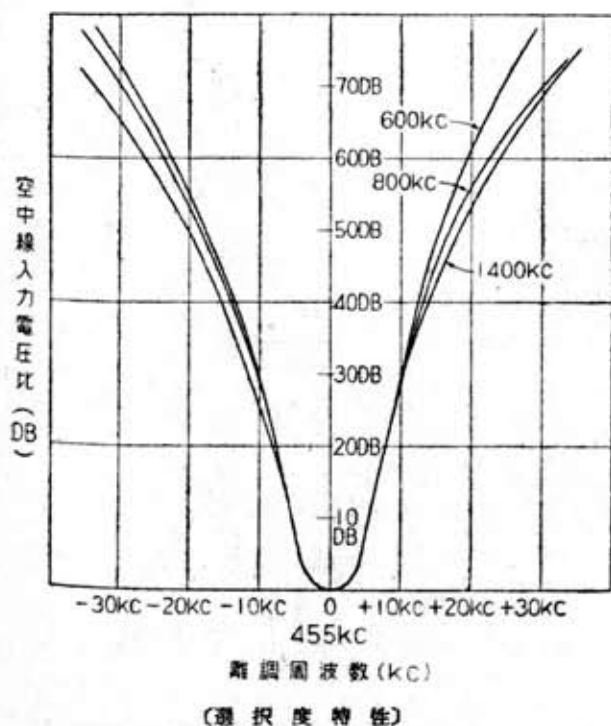
プッシュ・ボタンも5個が 535~1,605 kc をカバーしているのではなく、それぞれ 535~950, 850~1,605 kc と分



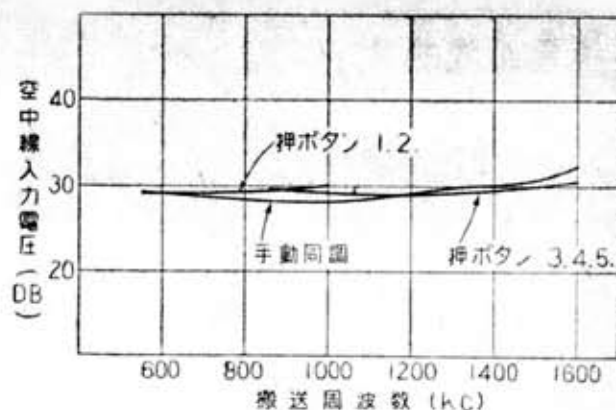
(シャーシー上部及びキャビネット裏面)

類されている。プッシュ・ボタンの調整が写真でわかるように従来のバツディング・コンデンサーで行なわれ、温度、湿度の変化で度々狂いやすかつた方式から新構想の連動式4同調方式となつている点はよい。

PU にきりかえた時のラジオの混入を防ぐ為に、局部発振コイルと、中間周波増幅段のカソード抵抗をアースから



(選択度特性)



(感度特性)

うかしてしまう点も非常によいし、出力トランス2次側からの NFB もある程度の音質改善に役立っているが、この SB-100 の音質調整は、殆んどきかないようで、もうすこし、本格的な回路にした方がよいのではなからうか。

近頃のシールドケースは、非常に合理的で、シールド完全であるが、どういふわけか SB-100 に使われているシールド・ケースは旧体なもので、時代感覚のずれがある。シャーシー内部の配線は、一寸乱雑で、もう少々まとまつた方がよく、バリコンのホルルド・システムも貧弱である。

全体的には、よくできたセットで、テレビでも好評を得ているシャープ製品として、多分にテレビ的外観をとり入れたのが、目立っている。

最後にこの SB-100 のボタンの使い方を示すと

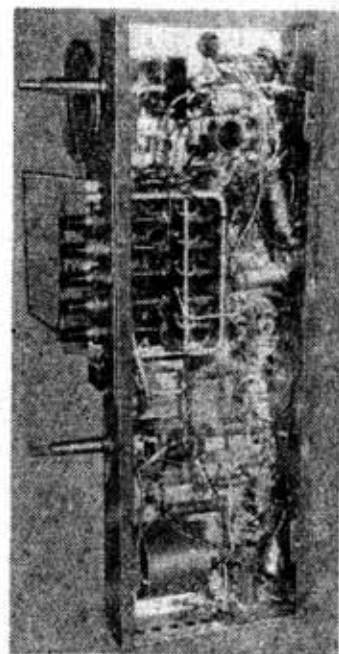
1. 希望の放送局5局を選び、それぞれの局の周波数を調べる。

2. 押しボタン下部の局名表示用蓋をとりさると、5つの小さいつまみが表われるから、前述したような、それぞれの周波数区分に従つて、希望放送局の周波数の低い順にきめる。

3. 各ボタンの希望放送局がきまつたら、音量調整器のつまみを右へ廻してから「手働」のボタンを押して同調用つまみで「1」のボタンで受信しようとする放送を受信する。つまみを時計方向に廻すと同調周波数は高くなり、反時計方向に廻すと低くなる。音量が最も大きく、マジック・アイの閉じ方の最も狭い所が同調点であるからここに定める。(つまみは各々の回転方向で、廻らなくなつた処が同調周波数の最小点だからこれ以上無理に廻さぬよう)

4. 以下同様に 2, 3, 4, 5 の押しボタンを調整する。

5. 全部のボタンの調整が終つたら、局名表示カードをはるが、その要領は、局名表示用蓋の裏側にある台紙を取りはずして切抜いた局名を蓋の裏面に台紙をとりつける。



(シャーシー裏面)